

## 中規模都市での家庭医療

### ～茅ヶ崎市内山クリニックでの実習～

レポーター：清田 実穂

横浜市立大学 6年

訪問先：内山クリニック

神奈川県茅ヶ崎市

#### 1. はじめに

私は、昨年の夏、大学のフリークオーターの期間を利用して、神奈川県茅ヶ崎市にある内山クリニックに1週間実習に行きました。内山クリニックを選んだきっかけは、PCFM ネットで診療所を探していた際、自宅から1時間足らずで行けるところにあったから、という何とも消極的なものでした。しかし、今から振り返ってみると、内山クリニックの実習で得られたものは大きく、その後の大学内外での実習に大きな影響を与えたと思います。

#### 2. 実習の概要

内山クリニックは茅ヶ崎駅前のビルの2階にある診療所で、外来診療および訪問診療を行っています。院内でできるのは単純X線撮影と採血、採尿、運動負荷心電図などで、スタッフは医師2名(内山富士雄先生、金國鍾先生)、看護師2名、医療事務3名でした。

月曜日から金曜日までの5日間、実習させて頂きました。基本的には、内山先生について、外来診療や訪問診療を見せて頂きましたが、その他にも、階下にある薬局まで患者さんと一緒に行き、薬の処方や支払いのところまで見せて頂いたり、受付にいる医療事務の方の後ろに座って、事務処

理を見せて頂くと共に、保険診療について、あるいは、会計時に起こるトラブルなどについて説明して頂いたりもしました。また、木曜日は内山クリニックの近くにある訪問看護ステーションに行き、訪問看護に同行させて頂きました。

#### 3. 内山クリニックでの1日

内山クリニックでの基本的な1日のスケジュールをご紹介します。

- 7:30 おはよう回診  
病院の勉強会に参加
- 9:30 外来診療
- 13:00 訪問診療
- 15:30 外来診療

朝のおはよう回診というのは、内山先生の患者さんのうち入院が必要な方が何人が入院している近くの病院まで、クリニックへの出勤前に寄って、全ての患者さんのところを回診するというものです。そのままその病院の研修医が中心になって行っている勉強会に参加したり、病院の図書室で調べ物をしたりと、クリニック内にいるだけでは得られない情報をたくさん得ていて、朝からとても有意義な時間の過ごし方だと思いました。

私が実習に行っていた時期は、ちょうど海水浴なども盛んな時期だったので、勉強会の内容は高体温についてとそれに関連して低体温についてでした。勉強会そのものもとても参考になりましたし、朝から勉強会を開いて自主的に勉強している研修医の先生方の姿勢も印象的でした。また、年末に大学の救命救急センターで実習したときに、たまたま低体温の患者さんがいらして、その処置のときに、勉強会の内容がとても役に立ちました。

#### 4. 外来診療と訪問診療

内山先生は神経内科が専門であったということで、高血圧や糖尿病などの慢性疾患のフォロー以外にも、アルツハイマー病やパーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神経疾患の患者さんも数多く診ていらっしゃいました。金先生は循環器が専門であったということで、慢性疾患のフォローの中でも、特に不整脈の患者さんや、狭心症の既往のある患者さんが多かったように思います。

外来は予約制であり、1人1人の患者さんにしっかりと時間が取られている様子が伝わってきました。予約制には利点と欠点があるとは思いますが、内山クリニックでは予約制であるがゆえに患者さんがゆっくりと話をする時間があるのだらうと思います。また、診察室がまるで普通の部屋やオフィスのような感じで、患者さんと先生が向き合って座って話をしているのが印象的でした。あれほど「診察室くさくない」診察室は初めてでしたし、それ以降も見たことがないくらいです。患者さんの座る椅子もゆったりとした、座り心地のよさそうな椅子で、いろいろなところから「診療所くささ」のが取り去られているように感じました。

訪問診療は内山先生についてしか見ていませんが、金先生の訪問診療は患者さんと話し込んでしまうような感じだと看護師さんなどから伺い、いつか機会があれば是非、金先生の訪問診療にも同行してみたいと思いました。

#### 5. 先生のこだわり

診察の合間に先生に伺ったところによれば、内

山クリニックの構造にはいろいろなところに内山先生のこだわりがあるということでした。上に述べた診察室のつくりだけでなく、他の場所もカルテの動きや看護師さんの動きなども考慮に入れた上での構造になっていました。

内山先生のクリニックの構造へのこだわりを聞いて以降、開業している先生のところに行くと、診療所の構造で何かこだわっていることはあるのかどうかを尋ねるようになりました。そうすると、先生によっていろいろなところに様々なこだわりを持って診療所をつくっている様子がよく分かり、得られるものがさらに多くなったように思います。

#### 6. 訪問看護ステーション

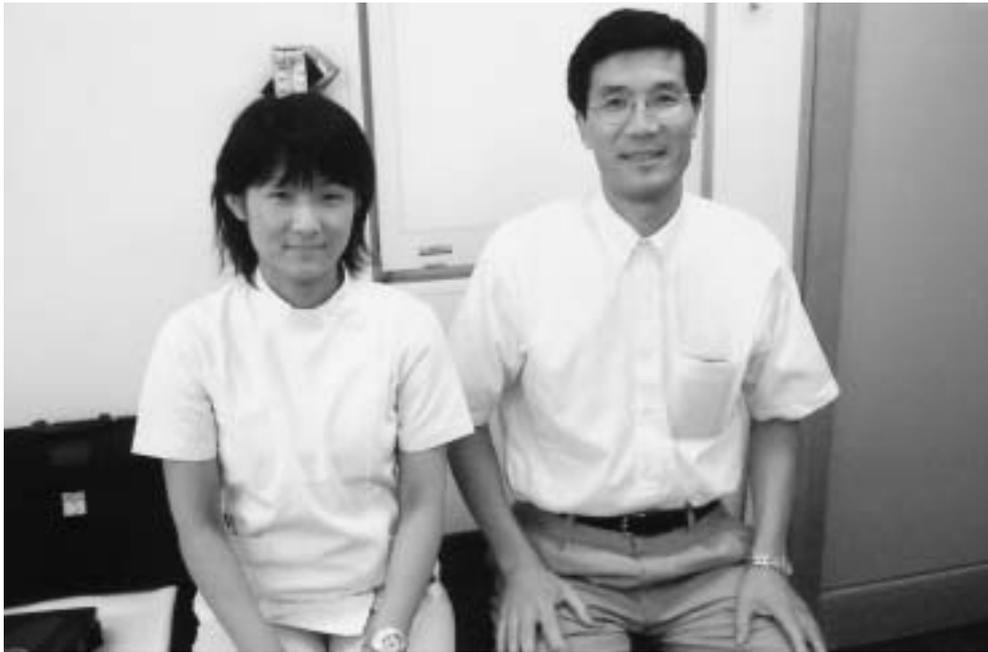
1週間のうち1日だけ、内山クリニックの近くにある訪問看護ステーションに見学に行きました。そこでは、清拭や陰部洗浄、入浴介助などをお手伝いしました。お手伝いというか、後ろにちょこちょこくっついて行って、いろいろ見させて頂いたり、利用者の方とお話をしたりしていました。内山クリニックの患者さんも多く、訪問診療の時はまた異なる表情を見ることができました。

#### 7. 実習してみて

茅ヶ崎市というと、大都市とはいかないまでも、中規模な都市というイメージがあり、医師はいっぱいいるのだらうなあと漠然と思っていましたが、訪問診療を行っている医師はとても少ないというお話を伺いました。そして、実際、高齢者の方々や様々な疾病を抱えている患者さんにとっては、訪問診療というのはとても需要の高いものであるということを実感することができました。

また、内山先生が「診療中に1つでもいいから、病気と関係ない話題をする」ということを仰っていましたが、実際に見ていて、家族の話や天気の話など、その患者さんの病気そのものとは直接的には関係のない話をすると、帰っていくときの患者さんの顔がとても満足気であるように見えました。

時間に追われる診療では、対象となる疾患の話



筆者（左）と内山富士雄先生

をするのが精一杯で、それとは関係ない話題をする時間的・精神的余裕はありません。そういう診療でも一見満足して帰っていく患者さんは沢山いらっしゃいますが、多くは心の中に何か引っかかったまま帰っているのではないかと思います。内山クリニックでの診療で、その心の中に引っかかったものを取っているように感じました。

大病院と診療所では、患者数も1人あたり診療時間も設備も何もかもが全く異なっています。地方都市では、近くに大病院があることも多いので、その両者の違いをうまく用いた診療ができるのではないかと思います。診療所は患者さんとの距

離が近く、患者さんを取り巻く様々な環境を踏まえた上で、いろいろな方面からのケアができる場だと思います。都市部でも家庭医療が必要とされており、家庭医療は都市部でも実践可能だということに再認識することができた実習でした。

快く実習を引き受けて下さった、内山先生、金先生、そして内山クリニックのスタッフの方々、訪問看護ステーションのスタッフの方々にこの場を借りて心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

連絡先：清田 実穂

E-mail：e983023@med.yokohama.cu.ac.jp